

律嶮壘之類也。此象類之矣。氣相校軫分裂。則隆隆之聲。校軫之音也。魄然若裂者。氣射之聲也。氣射中人。人則死矣。實說雷者。太陽之激氣也。何以明之。正月陽動。故正月始雷。五月陽盛。故五月雷迅。秋冬陽衰。故秋冬雷潛。盛夏之時。太陽用事。陰氣乘之。陰陽分事。則相校軫。校軫則激射。激射爲毒。中人輒死。中木木折。中屋屋壞。人在木下屋間。偶中而死矣。○下略

〔隨意錄〕聞之雷必收於其日之方。子日之雷收於子方。丑日之雷收於丑方。若雷起於其日方。則不得大發而已。紅毛人渡海。亦以是占雷風云。

〔槐記續篇〕享保十六年三月八日。參候。○山科道安仰○近衛三日ノ初雷ハ、サテシモツヨカルベシト

思ヒシガ、夫程ニハナクテオサマリタリ、加茂ノ邊ハ近年ニナキ大雷ナリト、玄蕃ガ申シタリ、ワヅカノチガイニテ、ヒビキノ多少アルモノナリ、ヨク世間ニテヨク人々云コト也。光ルト其マ、鳴雷ハキビシキト云、ヒカルト其マ、ナル雷ハ近キユヘナリ、遠キユヘニ光ルニアヒダノアルナリ、光ルハ鳴ノ勢ナレバ、別段ニアルベキヤウナシ、自體鳴ト電ハ同ジコトノ筈ナリ、遠近ノ差別マデナリ。○中略御亭ニテ前ノ袴衣ヲ御覽アルニ、杵ノ下タル時ニ音ハセズ、杵ノアガル時ニ音ノヒビキアルハ、アレボトノ遠サユヘナリト仰セラル、

〔文德實錄十〕天安二年五月丙戌、無雲而雷。戊子、無雲而雷。

〔三代實錄十六〕貞觀十一年六月十五日辛丑、不雨而雷。

〔祇園執行日記〕天文二年四月十三日、八ノ前へ程ヨリ天氣ヨク候ニ雷ナリ候、又常ニ替リ、大キナル木樵子ノ様ナル霞フリ候、其後雨ニ交リフリ候、雷シタ、カニナリ候、人ヲモ取候ツルゲニ候、〔大海のはし〕この内府○中院通茂は、雷のなりはためくを、ことに好みきかせ給ひけり、常に喘をやませ給ひけるが、いみじうおこりなやませ給ふときも、雷なり出でぬれば、即おこたらせ給ひけり、

有る時には、夕だちいみじうするに、寢殿のむねにのぼらせ給ひて、大笠などめしてぞ聞かせ給